

『時事直言』 No.1590 2023年2月9日

[HP] <http://chokugen.com/>

[FAX] 03-3956-1313

[twitter 日本語] t_masuda2019/

[instagram] t_masuda2019/

[mail] info@chokugen.com

[twitter 英語] T_Masuda_eng/

[Youtube] 増田俊男チャンネル/



時事評論家 増田俊男

バイデン米大統領の 2023 年年頭教書はアメリカ覇権終焉宣言！

米国時間 2 月 7 日バイデン大統領は恒例の年頭教書(The State of the Union)の演説を行いました。

先ずは大統領就任から今日までの政治、経済における成果を述べました。

インフレ率が下がり続けている、新型コロナ発生時と比べると死者数は 80%下がった、アメリカと欧米のウクライナ支援でロシア軍は劣勢になっている、国内インフレ、気候変動問題、銃規制など超党派的に成果を上げていると成果を数え、中国の専制主義に欧米の自由主義が勝つ為に結束が必要だとした。

昨日はパウエル FRB 議長の発言で、ニューヨーク株価は上がったのですが、バイデン演説後の株価は下がって 34,000ドルの大台を割り込みました。

バイデン支持率は演説後、株価同様下がっています。

私はバイデンの演説をテレビで見えていましたが、やはり「歳には勝てない」を痛感しました。

人間法的に認められる年齢と実際の肉体と精神年齢は異なります。

バイデンの講演を見聞きしていると、バイデンは肉体と精神が老いぼれていることが感じられます。

精神の方は我々シンクタンクが責任を持つので、大統領たる者の第一条件は肉体年齢です。

増田塾で私の放送を見ている方から、「先生の髪の毛はだんだん黒くなっていますね」言われたのですが、全くその通りで、毎日若返っていて、私の肉体年齢は相変わらず59歳です。

対中冷戦でバイデンは繰り返し声を大にして日本を含む自由陣営の結束を求めましたが、今までバイデン政権が犯した間違いが故に、「笛吹けど踊らず」です。

ウクライナ支援で欧州は足並みが全く揃っていません。

イギリスをはじめ欧州はウクライナ支援を発表しますが、「言うだけ」です。

支援したとしても形だけ。

だからゼレンスキー大統領は支援の確約を取る為欧州を走り回っているのです。

いくら民主主義の為と言っても、資本主義の世界では、「出しっ放し」はあり得ません。

民主主義の為人間と武器を 1 兆円分つぎ込んだら 2 年後に何兆円になって戻ってくるのかははっきりしないようでは、ウクライナ支援も口だけになります。

欧州ばかりか(日本を除く)世界がアメリカの誘いに乗らないのは、ブッシュ政権からバイデン政権に至るまでにアメリカは大きな間違いばかり繰り返してきたからです。

ブッシュはビン・ラーディンをセプテンバー・イレブンの犯人に仕立て、アルカイダを保護しているという理由でアフガンのタリバン政権を壊滅し、アフガン民主化を唱えて新政権を樹立すると言うので国連も有志連合も協力をしたのですが、ブッシュはサダム・フセインのイラク侵攻に集中してアフガン政権から手を引いたので、タリバン勢力が勢い付き、首都を除く地方を制圧しました。

国連も有志連合もアメリカに屋根まで上げられ、梯子を取られたことになったのです。

そしてバイデンは 2021 年 9 月 11 日アフガンから米軍完全撤退をした結果、アフガン政権は崩壊し、世界で最も非民主的なタリバン政権が返り咲くことになりました。

「論より証拠」。

アメリカが「民主主義の為に立ち上がろう、結束しよう」と笛を吹いても、聞いている素振りだけでも踊らないのです。

ブッシュ、オバマ、トランプ、そしてバイデンを間違いに誘導したのは誰で、その目的はなんであったか。

今からでも遅くない。

増田塾で学んでください。

2 月 14 日発送開始予定！増田俊男の小冊子 Vol.131

<それでも日本はこれから良くなる>

現在増田俊男の小冊子 Vol. 131 は先行受付中です。内容は ***はじめに 今の日本は本当の日本か***日本の憲法は誰のモノか***日銀は誰のモノか***日本の財務省は誰のモノか***「台湾有事」の真相***日本にとって米中冷戦とは何か***おわりに 日本は「川面の浮草」**などです。価格は、**1冊 4,800 円(税・送料別)**。詳しいご案内、お申込みについてはマスタ U.S. リサーチジャパン株式会社 (FAX : 03-3956-1313、HP : <http://chokugen.com/>) まで。

「時事直言」の文章及び文中記事の引用をご希望の方は、事前にマスタ U.S. リサーチジャパン株式会社 (FAX : 03-3956-1313) までお知らせ下さい。